

## Long time no see, Claudia sensei! (久しぶり、クラウディア先生!)

平成27年度と28年度にAET(英語指導助手)としてお世話になったクラウディア・シュワーツ先生が、約1年ぶりに本校を訪問されました!クラウディア先生はESSの生徒と昼食を食べたり、3年生の授業に参加したりと、楽しい再会のひとときを過ごされました。



ESSは今年の文化祭でどんなことをしたのですか?

短編映画を作成して、上映しました。ぜひ見て帰ってくださいね!



Yes, but I want to come back to Japan. I love Japan.

Do you like your current job in the U.S.A.?

## 1年生、クリスマスカード作成!

1年生がコミュニケーション英語Iの授業でクリスマスカードを作成しました。立体的にクリスマスツリーやサンタが現れるカードを作成した生徒もいました。



海外経験豊富な!

## 芸術科の川上先生にインタビューしました!

私はこれまでにバックパッカーとして38カ国を旅してきました。時に家畜といっしょにトラックの荷台に揺られ、またある時はホームレスに混じって駅の床で寝たこともあります。その中でたくさんの人と友達になりました。英語ができないから海外にいけないと思っている人がいますが、英語はコミュニケーションの方法のひとつでしかありません。最も大切なことは自分と違う人を“受け入れる”ことだと思います。風土や文化が違えば考え方や習慣が違うのは当たり前です。

漢字圏では筆談で話をしましたし、英語が通じない場所では絵やジェスチャーだけでコミュニケーションしました。自分の好きなことや知っていることであれば、単語だけでなんとなくわかり合うこともできます。

どうか怖がらず、“違う”ということに興味を持ち、“違う”ということを楽しんでください。そうすれば共通する部分も見えてきます。まずは話したくないクラスメイトと話してみましょう。



違いを受け入れよう!

## 年賀状を交換しました!

2年生国際文化コースの生徒が、研修旅行で訪れた台湾の高校生と年賀状を交換しました。



東高生が送った年賀状。

台湾の高校生からいただいた年賀状。

## 夏季休業中留学体験報告 No. 4

今回は、イギリスのエディンバラへ留学した野村花帆さん(青葉中出身)の留学体験を報告します。

### 1. どのような研修でしたか。

イギリスのエディンバラに25日間行ってきました。月から金には現地の大学で英語研修を、土日は市内を観光したりしました。

### 2. どのようにして留学の準備をしましたか。

ホストマザーとメールでやり取りなどしていました。

### 3. 最も印象に残ったことは何ですか。

演劇やダンス、音楽などのイベントがたくさんあり、台湾や韓国など、色々な国の方がパフォーマンスを披露されていて、とても国際的でした。

### 4. 今後がんばりたいことは何ですか。

積極的に国際交流していきたいと思っています。

### 5. 東高生に伝えたいこと

今まで知らなかった世界にふれてたくさんの人たちに出会うこともでき、自分の価値観も少し変わりました。留学に挑戦する価値は大いにあります。



## ポーツマス市訪問 青少年英語研修 参加者募集中



期間:平成30年3月17日(土)~3月26日(月)  
定員:8名(応募多数の場合は抽選。うち1名はTOEIC600スコア以上の成績者の中より最高得点者を選出する。)

応募資格:舞鶴市内在住の中学2年生から高校2年生までの生徒で、今年度の1学期と2学期の英語の評定平均値が、5段階で4.0以上等  
参加者負担費用:145,000円(予定)(渡航費総額433,700円のうち約2/3は舞鶴市が負担)

\*詳細は、NPO法人 舞鶴国際交流協会まで(募集要項は、国際教育部にも数部あります。興味のある人は、野田のところへ来てください。)

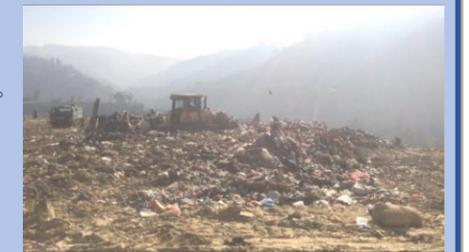
\*舞鶴市への応募締め切りは、**1月24日(水)** **消印有効** ※持参する場合は、**17時まで**

\***英語の成績証明書が必要**なので、希望する場合は今すぐ準備を始めましょう!

## Namaste ~ネパールからの手紙~

昨年度から、青年海外協力隊員としてネパールでボランティア活動をされている英語科吉積勇人先生からのメッセージをお届けします。

新年あけましておめでとうございます。今回はネパールのゴミ処事情況について紹介しようと思います。日本では燃えるゴミ、燃えないゴミ、プラスチック、ビン等分別することが当たり前ですよね?ネパールではすべてのゴミは一緒に処理され、分別の文化はありません。もっと驚くことに公的なゴミの回収システムすら存在しません。ですので、ゴミは川や路上にポイ捨てされて分解を待つか、回収業者に依頼して持って行ってもらうかの2択です。回収後、日本の感覚的に真っ先に燃やすことを想像する人が多いのではと思いますが、埋め立てるほうが世界のゴミ処理業界ではポピュラーだそうです。その証拠にネパールもドイツの支援を受けて、首都カトマンズから1時間離れた田舎に埋め立て地を持っています。この埋め立て地が強烈で、カトマンズ中のゴミが一度に集められ、長年に渡って使われているため、ゴミの山が80メートル積み上げられていました。鼻を刺すような臭いの中、プラスチックを手作業で集める人たちが働いていました。状態の良いプラスチックを回収し、インドでリサイクルをするのだそうです。図多袋一つにつき100ルピー(100円)の稼ぎのようで、労働環境は決していいとは言えません。



ネパールのゴミの多さや匂いいつも格闘しているのですが、実は日本のゴミの方が倍以上だそうです。ネパールはまだまだ生ゴミが占める割合が高く、プラスチックやビニール製品のゴミが日本の半分以下だそうです。以前日本に一時帰国した際、電化製品を買いました。梱包を開ける際、商品に辿り着くまでに何度もビニールを剥がしたことを異常だと感じました。コンビニに行けば、フリスク一つにビニール袋を用意し、フリスクにもビニールがかかっており、フリスクのケースもプラスチックで当たり前の日本の状況を考えれば、ゴミの量の差がそれほどあることも納得でした。ネパールで生活をしていると自分の生活にとって何がどれくらい必要なのか?を考えさせられてしまいます。皆様も一度自分の生活を見返したときに、本当に何がどれくらい必要なのかを見返してみると、身の回りがすっきりするかもしれません。すっきりしていい一年のスタートを切りたいなと思った吉積でした。



「国際だより」は上のQRコードからもアクセスできます。